

『風と未来』は、富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、

地域教育の「横の連携」と「縦の接続」

を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。1年に6回程度の発行を予定しています。

未来を語る！ 富士河口湖町・富士吉田市・都留市

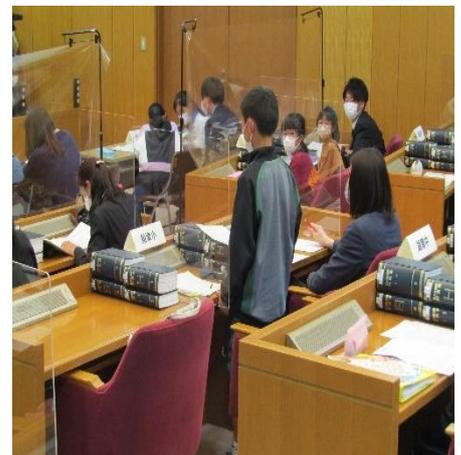
町長さんと語る会 in 富士河口湖町

11月2日(水)に、富士河口湖町役場にて、『町長さんと語る会～富士河口湖町の未来を創る子ども会議～』が開催されました。富士河口湖町内の小中高12校の代表児童生徒が集まり、「富士河口湖町をさらに魅力ある町にしていくためには」のテーマのもと、児童生徒たちによる一般質問と町への提案が行われました。

一般質問においては、「備蓄食料は何人分、何日分備蓄されているのですか?」「今使われていない空き家をどのように活用していこうと考えていますか?」「地下水資源を保護するために、どのようなことをしていますか?」等、非常に多くの学校から質問がでました。

町への提案においても、「空き家を使ったお店や交流の場を作ったらどうか」「ランドセルのリユースを進めてはどうか」といった多くの提案がなされました。「現在、空き家とお店を始めたいという人たちをつなげるマッチングのような取り組みは行っていない。今後そのようなマッチングを進めていくことを考えていきたい。」「今までにない取り組みである。リユースするために実際にランドセルをどの程度集められるかがわからないが、今後アンケート等の調査を考えていきたい。」と、各担当課長の方々が回答されていました。

最後に町長さんから、「みんなの仕事は勉強することだ。その勉強は今しかできない。しっかり勉強をして、知識をたくわえて、将来自分は何をしたいのかをはやく決めて欲しい。そして、たとえ進学等で町外に出たとしても、将来は帰ってきて、この町に貢献して欲しい。」と、児童生徒のみなさんにメッセージが送られました。



市長さんと話す会 in 富士吉田市

11月8日（火）に、富士吉田市役所にて、『市長さんと話す会』が開催されました。

「富士吉田の発展には何が必要だろうか？私たちにできることを考えよう」のテーマのもと、堀内茂市長と奥脇義徳教育長の両氏をお迎えして、今回で第50回となる会議となりました。

富士吉田市児生連では、市内小中学校でのアンケートをもとに討議の柱を設定し、何度も話し合い、本番を迎えました。ICT機器を活用し意見集約を行うことで多様な意見が可視化され、討議がしやすくなりました。

「富士吉田の発展には何が必要か？」では、「安心して暮らせるバリアフリーの町」「若い人たちが働きやすく、住みやすい町」「若者が昔からの文化を受け継ぐ町」等の意見が出ました。「今のわたしたち、これからのわたしたちにできること」では、「若者の情報発信力を活用すべきだ」「観光スポットを県内外に広めたい」等の意見が出ました。「ふるさと発見ワークショップ」でのデータも活用され、子どもたちの意見の視野が広がるだけでなく、深まってもきたようです。

子どもたちの問いかけに対し、堀内市長さん、奥脇教育長さんから丁寧なお話を聞くことができ、充実した会となりました。



都留リーダーサミット in 都留市

11月15日（火）に、都留市役所にて、『都留リーダーサミット』が開催されました。

都留市内小中学校及び都留興譲館高校の児童・生徒の代表者が集まり、現在都留市が取り組んでいる、「インターナショナルセーフスクール」について話し合いました。

各グループで中学生が話し合いをリードし、小学生も自分たちの意見、考えを積極的に発表していました。また、都留興譲館高校の生徒たちは、高校生の目線で様々な意見を出し、グループごとに考えるきっかけを作っていました。

それぞれの学校での安心・安全への取り組みを各校で発表し、そこから都留市全体について考えを広め、話し合いを進めました。人間関係作りや、環境の整備など、興味深い意見がたくさん出された会議となりました。



焼き芋集会 at 初狩小学校

11月9日(水)に、初狩小学校(堀内ちえ校長)にて、全校生徒による「焼き芋集会」が開催されました。初狩小学校では、児童会が中心になって全校生徒でサツマイモを栽培しています。また、サツマイモを焼くときに使用した藁は、5年生が栽培している稲からのもの。まさに全て自分たちで栽培したものでした。さらに当日は8名の地域の方々も招待して、交流会も行われました。子どもたちと地域の方々と一緒にグラウンドを走り回ったり、焼き芋を食べたりと、非常に賑やかな時間となりました。

まず始めは、地域の方々との対面式。児童会長からの「楽しみにしていた焼き芋集会です。地域の方々や他学年との交流を図りながら、頑張ってきてきたサツマイモをみんなで食べ、楽しい集会にしましょう。」の言葉から始まりました。

自己紹介等の後、みんなで『宝探しゲーム』と『ヘビ道じゃんけん』! チームに分かれて校庭内に隠された宝を探したり、クネクネに引かれたラインの上を走りながら出会ったところでじゃんけんをする遊びを行いました。

みんなで楽しんでいるうちにサツマイモが焼き上がりました。「おいしい!」「甘い!」「トロトロしている!」多くの子どもたちの声が聞こえました。みんなが笑顔でホカホカの焼き芋を食べ、収穫の秋を満喫しました。

自分たちで作物を栽培する苦労、それを食べる喜び、学校を中心に地域と一体となる機会など、様々な要素が詰まっている非常に価値のあるイベントとなりました。



【 カラー版は、富士・東部教育事務所のHPからご覧いただけます。

URL : <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/jouhoushibackn.html> 】

地域の皆様のご支援ご協力を得ながら、実りある実践となるよう努めてまいります。各事業についてご意見ご要望、地域連携活動の情報がありましたら、地域教育支援スタッフまでご連絡ください。

※連絡先 富士・東部教育事務所 教育支援スタッフ 0554-45-7841

丹波山村

保小中合同大豆収穫・脱穀体験

大豆の種から加工までの過程を知り、栽培することの大切さや生命の大切さを感じてもらうことを目的に、丹波山村保育所（相生有得所長）・丹波小学校（小山博史校長）・丹波中学校（加々美竜也校長）では、保小中合同で大豆栽培、さらにその大豆を使用した味噌造りを毎年行っています。6月にポットに大豆を播き、その後成長した苗を畑に植え替えました。10月には大豆になる前の枝豆を収穫しました。そして今回はいよいよ大豆の収穫と脱穀。今後は2月の味噌造りと続きます。1年間かけて味噌を発酵させ、出来上がった味噌は給食にも使用します。



収穫は11月17日（木）に行われました。当日は、前回の枝豆収穫の日と違って変わって小春日和のおだやかな日となり、保育園児から中学生までの多くの子どもたちが仲良く大豆の収穫を行いました。

始めの会の後、早速グループに分かれ収穫開始。中学生のお兄さん・お姉さんが保育園児・小学生の子どもたちの名前を呼び、直ぐに班が出来上がりました。収穫をはじめてみると、なかには保育園児の力ではなかなか抜けない枝も。直ぐに小学生・中学生の年上の子どもたちが手伝い、みんなで力を合わせて収穫していきました。そして、大豆がついたままの枝を10本ごとヒモで縛り、今後乾燥させるために運んで行きました。

「中学3年生なので、もう大豆を育てるのが最後だと思うとさびしい。最後の味噌造りは頑張りたい。」「一見すると枯れているので、これが食べられるようになるなんて不思議な感じがする。」等の感想が聞かれました。お別れの時にはみんな名残惜しそう。特に保育園児の子どもたちは、お兄さん・お姉さんの名前を呼びながら、大きく手を振って帰って行きました。



脱穀は12月14日（水）に行われました。当日は保育園児も参加の予定でしたが、体調不良の園児が多く、小学校と中学校の児童・生徒のみでの脱穀となりました。いつものようにグループ分けは中学生がリーダーシップを執り、すんなりと完了。本来は木の棒で乾燥した大豆をたたいて豆を取り出しますが、小さい児童もいるので、今回は危なくないように水を入れたペットボトルを使用しました。少しぬかるんだ畑の上で行ったためか、叩いてもなかなか大豆が出てきません。先生達のカも借りながら、なんとか豆を取り出しました。そして、ブルーシートの上に散らばった豆をかき集め、「唐箕」で豆と不要物の分別。集めたものを唐箕の上の口に注ぎ、ハンドルを回して羽根板を回転させると、重い豆は注ぎ口に近い右側の口に落ち、少し軽い枝などは遠い左側の口に落ち、一番軽い殻は左端から外へ吹き飛ばされます。次々と落ちて集まっていく大豆を見て、「うわー！」の声。寒いなかでの作業でしたが、その苦勞が報われた瞬間でした。

いよいよ今後は味噌造りに入って行きます。どんな味になるのか楽しみです！



明日の風 第4回 アスリート実技講習会



11月5日(土)に、大月市宮陸上競技場にて、第4回アスリート実技講習会が実施されました。第3回のアスリート実技講習会を経て、今回は各種目の記録を計る陸上記録会としての実施です。前回とは打って変わって素晴らしい秋晴れのもと、約40名の北都留地区の子どもたちが自己最高記録を目指して汗をかきました。

当日行われた種目は、100m走、60mハードル、走り高跳び、走り幅跳び、ジャベリックボール投げ、800m走(女子)、1000m走(男子)の7種目。ジャベリックボール投げではまだ慣れていない子どもたちが多く、なかなか記録が伸びませんでしたが、他の種目では前回の実技講習会で練習した時よりも良い成績に喜び子どもたちがたくさんいました。

次回は、2月18日(土)に勤労青年センター体育館にて開催します。多くの子どもたちの参加をお待ちしています！



シオジ森の学校 ロケットストーブ製作

11月12日(土)13日(日)の両日に、大月市内の水下ベニア商会にてロケットストーブ製作を行いました。ロケットストーブは、少ない燃料でも高火力が魅力のキャンプギアです。コンパクトで持ち運びができ、しっかりと調理もできます。また、最近では非常時にも役立つことから注目度が上がっているアイテムです。講師は大月市長の小林信保氏。多くの家族が協力して、楽しみながら製作活動を行いました。

コロナ禍以前は、作成したロケットストーブを使ってお米を炊き、みんなで昼食会をしたそうです。一日でもはやくそんな日常が戻ることを期待しています。



都留第二中学校教員による出前授業

at 禾生第二小学校

11月25日（金）に、禾生第二小学校（渡邊正司校長）にて、都留第二中学校教諭 廣瀬理奈先生による出前授業が行われました。6年生17名を対象に行われましたが、今年の4月から始まる中学校生活についてのイメージと、入学までに何をしていかなければならないかのイメージの両方が湧いてくる授業でした。

授業は「都留二中ってどんな所？」「今までの自分」「これからの自分」の3つの大きな柱から構成されていました。入学式・校外活動・授業・部活動・学園祭等の映像や、禾生第二小学校の卒業生で、現在都留第二中学校1年生からのメッセージ、中学校の英語・数学・国語の先生方からのメッセージなどが映像で流されました。中学生への「小学校と中学校の一番の違いは何ですか？」という質問に対して、「授業時間が長く、休み時間が短い」という回答が出ると、教室から「最悪だ」の声も。決してよい面だけでなく、現実も伝えることによって、今までの自分に足りなかった部分、これからやっていかなければならないことを各自に確認させていきました。

廣瀬先生の身振り手振りを交えた話しぶりと映像に引きつけられた45分間でした。小学生の児童たちにとっても非常に有意義な時間だったと思います。子どもたちが、中1ギャップになることなく、中学校生活に慣れていけることを期待しています。



小高連携事業

富士北稜高校 & 吉田西小学校



10月24日（月）に、富士北稜高校（塩入由里校長）にて、小学生を対象としたキャリア教育の一環として授業見学が行われました。これは、吉田西小学校と富士北稜高校の間で行われている連携事業で、今年で2年目となります。吉田西小学校6年生44名が参加し、富士北稜高校3年生5系列の生徒が案内しました。

富士北稜高校にあるそれぞれの系列ごとに小学生がグループに分かれ、高校生の親切な案内のもと、授業見学が行われました。「福祉総合実践」や「中国語入門」、「自動車整備」、「電力」、「インテリア計画」など、実際に行われている授業を経験することで、授業の様子や高校生活、進路について考えるきっかけとなりました。

この貴重な体験は、小学生のこれからの進路選択に大いに役立つと思われます。それぞれの校種で学びを共有し、「縦のつながり」の中でゆたかな学びの実践となることが期待されます。



都留文科大学附属小×都留文科大学

英語特区事業 都留文科大学「ミニミニ大学」

11月7日(月)に、都留文科大学(藤田英典学長)にて、都留文大附属小学校(齊藤宏明校長)の児童を対象とした大学授業体験が行われました。

まず始めに、加藤敦子副学長から「大学ってどういうところ?都留文科大学について知る」をテーマにして、「生きるってどういうこと?」「どうすれば豊かに生きることができるのか?」等、大学で学ぶことの大切さのお話をいただきました。その後、学食や授業など、キャンパス内の見学を行いました。

最後に、「英語を使う国から来た先生に英語を学ぶ」授業を受けました。明るく軽快なニック先生の指導のもと、5人の留学生(スウェーデン・デンマーク)とともに英語の授業を楽しみました。英語特区である附属小の子どもたちは、日頃の授業の成果もあり、自主的にどんどん英語を使います。学習した表現を実際に使う場面が設定され、留学生達と多様な会話が広がり、楽しく自由な英語使用場面が展開されていました。

子どもたちからは、「留学生といろいろな話ができて楽しかった」「大学生になって勉強したい」との感想もあり、充実した大学授業体験となりました。



ふじざくら支援学校 中学部

「オータム ミュージック フェスタ」

with 銘楽堂



11月29日(火)に、ふじざくら支援学校(手塚雅仁校長)にて、地域交流の一環として、中学部の生徒と銘楽堂による「オータム ミュージック フェスタ」が開催されました。

地域の方々との触れ合いを通じて様々な経験を広げるとともに、主体的に関わりながら活動を楽しもうとする意識を高めるために行われ、中学部の生徒21名が参加しました。銘楽堂からは4名の演奏者の方々に来校していただき、学習活動の中で取り組んでいる楽曲を聴いたり、ダンスに取り組んだりしました。

生徒達は、ジェンガの演奏や学園祭の学年演劇で発表した「Sing」の音楽に合わせて踊り、とても楽しそう!地域交流が進むとともに、音楽の素晴らしさも体験できた貴重な機会となりました。



第71回山梨県高等学校英語スピーチコンテスト

11月3日(木)文化の日に、甲府南高校にて、第71回山梨県高等学校英語スピーチコンテストが開催されました。山梨県下の高等学校21校の代表生徒が参加しました。富士・東部地区管内からも、都留高校・都留興譲館高校・上野原高校・吉田高校・富士河口湖高校の5校の代表生徒が参加し、それぞれのテーマに沿った発表を英語で行いました。

3位に入賞した吉田高校の藤井菜々子さん(2年)は、「周囲の目を気にするあまり、本当に自分がやりたいことを出来ないでいた。あるテレビ番組から、自分の力を信じて、挑戦してみることの大切さに気づかされた。世界は多くの問題にあふれている。残された人生を後悔しないためにも、問題解決に向けチャレンジして行きたい。」と、将来への夢を語っていました。また、他の生徒達は皆、優良賞に輝きました。

出場者

都留高校 安藤成美さん(2年) What's in a name?

都留興譲館高校 富田俊輔さん(1年) A Lesson From Corona

上野原高校 小林舞花さん(2年) The Original Virtual Reality Game

吉田高校 藤井菜々子さん(2年) No challenge, no heaven!

富士河口湖高校 中村心良さん(1年) Eliminating Food Loss through Compassion

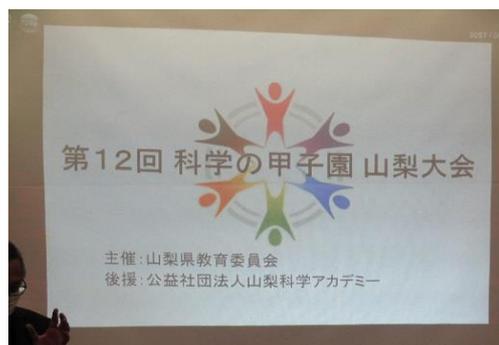


吉田高校 科学の甲子園山梨大会 第2ステージ

12月17日(土)に、甲府東高校にて、「第12回 科学の甲子園山梨大会 第2ステージ」が開催されました。この大会は、高校生が理系分野の知識や応用力を競う大会です。17校42チームが参加した第1ステージ(11月開催)を勝ち抜いた吉田高校が、甲府南高校(2チーム)、甲陵高校、山梨学院高校と共に第2ステージに進出しました。

理科、数学、情報の分野から出題された課題に対して、仮説を立て、実験を通じてその仮説が正しいのかを検証・考察します。そして、その結果を発表し、審査員が内容の妥当性などを評価した上で、筆記と工作による第1ステージとの合計点が最も高かったチームが優勝になります。思考力・判断力・表現力の全てが試される大会であり、吉田高校の生徒達も、120分間の実験競技と8分間の発表時間のなかで全力を尽くしていました。

残念ながら結果は3位で、全国大会への出場とはなりませんでしたが、自分の好きなことに没頭できた有意義な1日になったと思います。



やまびこ祭り at やまびこ支援学校

11月12日(土)に、やまびこ支援学校(小林勝校長)にて、「第41回やまびこまつり」が開催されました。コロナ禍等のために、今年の開催は実に4年ぶり!「えがおかがやくたのしいやまびこまつり~4年ぶりだよ!全員集合~」のテーマのもと、たくさんの笑顔がはじけました。

小学部の発表は、「きたかぜとたいよう~みんな なかよく そらのうえ~」。負けず嫌いの北風と太陽が、旅人を相手に勝負を始めました。勝負には太陽が勝ちましたが、最後は仲直りをしてみんなでダンス!体育での学習をいかし、身体を使って、北風と太陽をのびのびと表現しました。

中学部の発表は、「こころ ~たいせつな4つの心~」。自分の気持ちを優先して友達に迷惑をかけてしまい、どこかに行ってしまった友達を、4つのたいせつな心:「許すところ」「諦めないところ」「信じるところ」「寄り添うところ」を胸に、探しに行く物語。友達のことを思いやることの大切さを表現しました。

高等部の発表は、「CHANGE CHALLENGE 高等部!! ~なりたい自分になるために~」。皆、それぞれに悩みを抱え、気持ちが不安定な生徒たち。そんな時に、不思議な力を持った「ビックボス」の手助けで、「協力・勇気・絆」の大切さを目の当たりにした生徒たちが、少しずつ変化し、なりたい自分になっていくために頑張る物語。

数年ぶりの舞台発表だったため、発表前の児童生徒たちはとても緊張していました。しかし、発表終了後のやりきったという満足感と笑顔は、児童生徒たちの成長の証だったと思います。



高大連携事業 at 都留興譲館高校

10月11日(火)に、都留興譲館高校(小佐野景賀校長)にて、高大連携事業の一環として、都留興譲館高校英語理数科の生徒と都留文科大学の留学生による合同授業が行われました。この授業は、「総合的な探究の時間」を使って毎週行っているものです。今回は、後期の2回目の授業であり、初めて参加する留学生も多かったため、留学生は自国の紹介、高校生は都留市内のおすすめスポットを紹介するという形をとりました。

まず始めは留学生がパワーポイントを使って自国の紹介し、後半はテーブルごとに高校生がおすすめスポットを紹介しました。時間で区切り、高校生がテーブルを移動し、お見合い形式で違った留学生に再度おすすめスポットを紹介。その繰り返しで、出来るだけ多くの留学生と話し合う機会を作りました。生徒達はボディランゲージやスマホ等も駆使して、なんとかコミュニケーションを成立させようとしていました。総勢20名程度の留学生の出身国は米国・韓国・デンマーク・フランス・中国など様々。そのため、英語の発音もそれぞれの母国語の影響を受け、様々ありました。高校生の生徒達にとっては、本当の意味で生の英語に触れるよい機会となっていました。



明日の風 「一人一花 フォトライブラリー」

北都留地域教育推進連絡協議会（会長：小林信保大月市長）では、子どもたちが未来に向かって「夢」や「希望」を持ちながら生きていくことができるように、地域の教育力向上を意図する「地域教育 明日の風」の活動の一環として「一人一花運動」を進めてきました。

4月に北都留地区の全ての幼・保・小・中・高・支・大および主な構成団体と、小学3年生、保育所(園)・幼稚園の年長児全員に花の種約1,500袋を配付して、花が咲き、潤いのある環境づくりに取り組んできました。

マリーゴールド・百日草・ひまわり・ルナリアなどが、各地でこころを込めて育てられ、今年も多くのきれいな花を咲かせました。その様子を収めた写真展『フォトライブラリー展』が、11月7日(月)～12月9日(金)まで、北都留教育会館で開催されました。展示物の作り方も学校によって個性的。それぞれの学校が、それぞれの花を咲かせていました。



明日の風 芸術文化振興事業

銘楽堂 PRESENTS 『ファミリーコンサート』

10月29日(土)に、上野原市文化ホールにて、地域教育「明日の風」芸術文化振興事業 銘楽堂 PRESENTS 『ファミリーコンサート』が開催されました。このコンサートは北都留地域教育推進連絡協議会の主催事業として、銘楽堂の協力を得て、今年度より新たに始まったものです。小中学校の子どもたち、吹奏楽部の生徒達、保護者の皆様方等、多くの方々のご参加をいただきました。

フルート(高木美里さん)とピアノ(望月恭子さん)のメロディーに会場は魅了されていきます。音楽を通じたクイズや楽器紹介など楽しい時間を過ごした後、ディズニーソングやハロウィンメロディー、クラシックや映画音楽などの馴染みのある曲から秋をイメージする曲など、秋深まる休日の豊かなひとときを過ごすことができました。

「私もフルートを吹いてみたくなった」「ピアノとフルートの音色が重なって、いいコンサートだと思った」「馴染みのある曲だけど、今日はいつもと違った感じ方で聞くことができた」「フルートが水晶の中にいるみたいに透明な音で気持ちよかった。ピアノは一つ一つの音が心臓に響いた・・・あの音を自分では出せなかったからすごいと思った」等、多くの感想をいただきました。

来年秋も開催予定です。お楽しみに。

